

令和元年度 指定管理者評価表

【別紙5】

施設名：市民公益活動支援センター

指定管理者名：NPO法人はびえる

1. 個別評価

評価項目	評価の視点	自己評価	市評価
サービスの提供	施設の設置目的に沿って平等利用が確保されたか。	A	A
	施設の設置目的に沿ってサービスを提供しているか。	A	A
	利用時間、利用日、利用期間は遵守されているか。	A	A
	利用者に対する情報提供、情報発信は適切か。	A	A
	利用の承認、案内等は適切かつ迅速か、また接遇は適切か。	A	A
	利用者のニーズを把握し、改善、工夫を行っているか。	A	A
	施設の利用率は適正な水準にあるか。	A	A
	苦情等の対応は迅速かつ適切か、また市に迅速に報告しているか。	A	A
	指定管理者が行った自主事業は、市民サービスの向上に役立ったか。	A	A
施設等の維持管理	不具合が生じた場合の市への報告は適切か。	A	A
	建物躯体及び設備機器の点検・保守、安全確認等は適切か。	A	A
	修繕は適切か。	A	A
	備品の管理は適切か。	A	A
	清掃、警備、衛生管理は適切か。	A	A
労務状況	サービス提供及び施設の維持管理のため、計画どおり適正な人員が配置されているか。	A	A
	勤務体制、勤務者の休暇、休憩等の取得が適正か。	A	A
	必要な専門的資格、技術を有する人材を確保しているか。	A	A
	従業員に対して、計画的、効果的な人材育成を行っているか。	A	A
危機管理	労働諸法を遵守しているか。	A	B
	緊急時に備えた、体制、対応マニュアル、研修・訓練等は適切か、また、防火、防犯体制の整備、研修、訓練等は適切に行われているか。	A	B
	災害、事故、盗難等の発生時に迅速な対応ができる組織体制と連絡体制になっているか。	A	A
個人情報	利用者の安全は確保されているか。	A	A
	個人情報保護のための体制、書類等の整備・保管、問い合わせ等への対応、研修は適切か。	A	A
	個人情報保護及び情報公開に関する関係法令を理解しているか。	A	A
財務状況	万が一、個人情報が流出した場合の対応が検討されているか。	A	A
	管理に要する収支は適正に保たれているか。	A	A
	支払いの遅滞は生じていないか。	B	B
	使用料、利用料金収入は計画どおりか。収入の増加が図られているか。	A	A
	現金は適正に取扱われているか。	A	A
	経費は縮減されているか、または、縮減に向けての努力がされているか。	S	S
その他	業務を外部委託している場合、その業務は施設管理の主要な部分以外であるか、過度に外部委託にシフトしていないか。	A	A
	省エネルギー、省資源、環境配慮物品等の購入など環境への配慮はなされているか。	A	A
	良好な関係を保つべき関係団体や地域との連絡調整は適切か。	S	S
	管理に要する法令は適正に遵守されているか。	A	A
	市との定例の連絡調整の機会が確保されているか。	B	B
事業計画書（申請時）および年間事業計画書どおりに管理がなされているか。	A	A	

評価欄の説明

- S：協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。
- A：協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。
- B：協定等を遵守し、概ね仕様書に沿った管理が行われたが、一部に課題がある。
- C：一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。

2. 収支報告

単位:円

		事業計画A	事業実績B	A-B	前年度実績	備考
収入	利用料金収入	500,000	423,080	76,920	424,090	
	自主事業収入			0		
	物品販売収入			0		
	手数料収入			0		
	指定管理料	11,571,000	11,521,000	50,000	11,571,000	
	その他収入			0		
	収入総額	12,071,000	11,944,080	126,920	11,995,090	
支出	人件費	7,700,000	7,162,418	537,582	7,079,789	
	事務費	1,024,000	699,925	324,075	954,166	
	管理費	482,000	374,666	107,334	337,932	
	自主事業経費	1,110,000	520,594	589,406	1,054,091	
	光熱水費	700,000	616,920	83,080	639,586	
	リース料	955,000	822,152	132,848	803,146	
	その他	100,000	544,770	-444,770	543,130	
	支出総額	12,071,000	10,741,445	1,329,555	11,411,840	0
収支差額	0	1,202,635	-1,202,635	583,250	0	

3. 総合評価

自己評価

今年度の重点目標は、これまでの活動成果の見直しと新たな課題の発見。

河内長野市文化振興財団、河内長野市社会福祉協議会との協働事業としてのボランティア講座はSDGsを「知る」から「使う」に重点を置き、去年よりも深掘りすることができた。去年と同様、高校生の積極的参加による高齢者のモチベーションアップが見られた。

学生インターンシップを受け入れ、学生による体験プログラムの取材や、美加の台夏休みキッズスクール内でのプログラムの企画と実施により、現役世代の発掘の取り組みが前進した。

パソコン関連団体のメンバーを講師として、ブログ作成の講座を開催した。後日、月2回開催の「パソコンよろず相談」でアフターフォローすることができ、団体との連携を深めることができた。

南河内のつどいとして大阪大谷大学の学祭に出展し、SDGsと関連付けた各市の団体の紹介、SDGs紙芝居を上演するなど、SDGsの啓発ができた。

SDGs関連の講座・ワークショップに数多く出席し、より広範囲なネットワークを築くことができた。その中でESD(持続可能な開発のための教育)関連のネットワークが広がり、ESDの勉強会を南河内のつどいで開催できた。

企業向けのSDGs講座にも出席し、企業の取り組み、行政と企業の連携など多くの情報を得ることができた。

ボランティア市民活動フェスティバルは新型コロナウイルス感染防止の為に中止となったが、全員集合展示による団体紹介の準備をしていたため、事後展示として発表の場を設けることができた。今後も、中止を視野に入れた危機管理の必要性を感じた。

市評価

昨年度から河内長野市文化振興財団、河内長野市社会福祉協議会との協働事業であるボランティア講座でSDGsを発展的に普及啓発や、SDGsを切口に学生世代へのアプローチした点は評価できる。

一方で、昨年に引き続き、会計面・期限管理・校正等、事務局スタッフの円滑な事務遂行を出来るような体制づくりの構築を進めてもらいたい。